



令和8年5月

スクールカウンセラー 中野隆治



「キツネの言葉」



フランスの作家・飛行家サン＝テグジュペリの『星の王子さま』の中で、王子さまがキツネと友達になりたいと言うと、キツネは、

「しんぼう(=我慢)が大事だよ。最初はおれから少しはなれて、こんなふう^{かん}に草の中にすわるんだ。おれはあんたをちよいちよい横目で見ると、あんたはなんにもいわない。それも、ことば^{かん}というやつが、勤^{かん}ちがいのもとだからだよ。一日一日とたつてゆくうちにや、あんたはだんだんと近いところへきて、すわれるようになるんだ……」

と、いわば友達になる極意^{ごくい さず}を授けます。ゆっくりと二人の間隔^{かんかく}を狭めていく、焦^{あせ}らないで、焦^{あせ}って言葉なんかかけない方がいい……キツネの言葉は、情報社会の中で、SNSですぐに「友人」ができてしまう現代に、痛烈^{つうれつ}な批判を投げかけているような気がします。ゆっくりと焦^{あせ}らないで、お互い^{たがひ}がお互い^{たがひ}を知る、そして友情が生まれる。

軽^{かる}はずみな友情は、思わぬ所で、足元をすくわれてしまうかもしれません。真の友情を築き上げるには、時間が必要なんだよ。……作者サン＝テグジュペリはそう言っているように思います。

友人が出来上がる過程として、心理学でよく言われるのは、近接性^{きんせつせい}(=自分の近くにいること)と出会う回数です。たとえば、新しいクラスになって、みなさんが最初に言葉を交^かわした人と親友になったということはありませんか。また、学校の内外でよく出会う人と、いつの間にか声を掛け合い、親しくなっていく……そんな経験を持つ人もいないのでしょうか。その人が自分の身近にいたり、何度も出会ったりすることで、二人の間に特別な感情が流れる……友情の成り立ちの一つではないでしょうか。

ただ、その友人と自分が親友になるかどうかは、別の次元で考える必要があるようです。ある心理学者が言うように、親友とは、「ただ仲良くて親しいと言うだけでなく、お互いが心を許し、深く理解し合うかけがえのない存在」だからです。言葉通りの単なる親しい友ではないということです。もう一つ付け加えるならば、自分との利害関係を考えないで相手を受け入れることができるかということも、親友の必要条件になってくると思います。

友人にしる、親友にしる、自分のことばかりを考えてうまくいった例^{ためし}はないようです。相手のことを考え、相手に何ができるかをお互いに考えていけば、友情は長く続いていくのではないのでしょうか。そのためにはキツネが言うように、お互いが「しんぼう」し、長い時間をかけて作り上げていくことが必要ではないのでしょうか。

友人について、親友について、機会があればゆっくり考えてみてください。実^{みの}りある答えが導き出されるかもしれません。